

付属機関等の会議結果の公開 様式

会 議 名	平成27年第2回愛荘町みらい創生会議 会議結果（概要）
開 催 日 時	平成27年10月14日（水） 10:00～12:00
開 催 場 所	愛荘町役場愛知川庁舎3階第4会議室
出 席 者	西村正司、秦憲志、田中伸幸、長瀬昭一、兼房貢司、長崎弘法、北村由合美、大橋通孝、正木玲央奈、嶋中まさ子、野村仁美
欠 席 者	宇山弘子、塚越秀治、西澤基治
事 務 局	宇野町長、中村副町長、林総合政策部長、上林総合政策課長、橋本主査（ディスカッション参加者） 廣瀬祐介（税務課）、岡本啓太郎（環境対策課）、杉本大輔（子ども支援課） 野々村直幸（商工観光課）、森野直樹（生涯学習課）
傍 聴 者	なし
審 議 内 容	○愛荘町みらい創生戦略人口ビジョン編（素案）について <ul style="list-style-type: none"> ・現在と2040年及び2060年の人口ピラミッドの比較 ・当町の将来目標人口の設定 <ul style="list-style-type: none"> 2030年→合計特殊出生率 2.02 2040年以降→合計特殊出生率 2.07 ※目標人口 20,000人 ○SWOT分析による愛荘町の戦略課題の検討について <ul style="list-style-type: none"> ・委員及び町若手職員による、当町の戦略課題における討議 ・当町の強みや弱みについての整理 ○次回開催日について <ul style="list-style-type: none"> ・日時 平成27年11月12日（木）午前9時30分から
問い合わせ先	総合政策課 担当 上林、橋本 連絡先 0749-42-7684

平成27年度 第2回 愛荘町みらい創生会議
議 事 録

1. 日 時：平成27年10月14日（水） 10:00～12:00

2. 場 所：愛荘町役場 愛知川庁舎 3階 第4会議室

3. 出席者：

【委員】

	区分	所属	氏名（敬称略）	備考	
会長	産業	愛荘町商工会	西村 正司	会長	
	観光	愛荘町秦荘観光協会	宇山 弘子	施設長	欠席
	官公	滋賀県		オブザーバー	—
	官公	地方創生コンシェルジュ		オブザーバー	—
	官公	彦根公共職業安定所	長崎 弘法	所長	
副会長	学識	滋賀県立大学	秦 憲志	専門調査研究員	
	金融	(株) 滋賀銀行愛知川支店	田中 伸幸	愛荘町金融協議会	
	金融	日本政策金融公庫彦根支店	長瀬 昭一	支店長	
	労働	高田労働組合 本部書記長	兼房 貢司	彦根地区労働者福祉協会	
	労働	彦根青年会議所	塚越 秀治	まち活性化室長	欠席
	言論	秦荘有線放送農業協同組合	北村 百合美		
	一般住民	愛荘町区長会代表	西澤 基治	愛荘町愛知川観光協会会長	欠席
	一般住民	公募委員	大橋 通孝		
	一般市民	公募委員	正木 玲央奈		
	一般市民	公募委員	嶋中 まさ子		
	一般市民	公募委員	野村 仁美		
SWOT 分析 参加者		総務部	廣瀬 祐介	税務課	
		総合政策部	岡本 啓太郎	環境対策課	
		住民福祉部	杉本 大輔	子ども支援課	
		産業建設部	野々村 直幸	商工観光課	
		教育委員会	森野 直樹	生涯学習課	
事務局		愛荘町長	宇野 一雄	庁内推進本部長	
		愛荘町副町長	中村 守	庁内推進副本部長	
		総合政策部長	林 定信		
		総合政策課長	上林 市治		
		総合政策課 担当	橋本 庸介		

	株式会社パスコ	後藤 修次		
		高島 陽平		
		伊東 大悟		

4. 資料：

- ・会議次第、委員名簿
- ・愛荘町みらい創生戦略 人口ビジョン編（素案）
- ・SWOT分析による愛荘町の戦略課題の検討について

5. 議事：

1. あいさつ
2. 愛荘町みらい創生会議 委員の変更について
3. 愛荘町みらい創生戦略 人口ビジョン編（素案）について
4. SWOT分析による愛荘町の戦略課題の検討について
5. その他

6. 議事要旨

（1）開会、あいさつ

事務局：朝夕めっきりと冷え込む季節となりましたが、第2回愛荘町みらい創生会議を開催しましたところ、委員の皆様方には、大変お忙しいところご出席をいただきまして誠にありがとうございます。総合政策課の上林でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

只今から第2回愛荘町みらい創生会議を始めさせていただきます。開会にあたり、西村会長よりごあいさつをいただきます。

西村会長：おはようございます。本日は早朝よりお集まりいただきまして誠にありがとうございます。当初の予定でありました7日にご案内申し上げたところ、急きょ変更で14日になりましたが、たくさんの方に来ていただきまして誠にありがとうございます。

こういう素晴らしい場所をお借りして議論をさせていただくことを、大変うれしく思っております。委員の方々にはひと言ずつでもご発言をいただきまして、よりよいみらい創生会議になりますようにご協力をいただきまして、簡単ではございますがごあいさつに代えさせていただきます。ありがとうございます。

事務局：ありがとうございます。

続きまして、宇野愛荘町長からごあいさつを申し上げます。

宇野町長：みなさん、おはようございます。本日は宜しくお願ひ申し上げます。

本日、愛荘町みらい創生会議を開催しましたところ、公私ともに大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。開会にあたりまして一言ごあいさつを申し上げたいと存じます。

日頃は、愛荘町行政各般にわたりましてご理解、ご協力をいただいております、厚くお礼を申し上げます。愛荘町みらい創生会議につきましては、本年8月9日に皆様方の委員就任と第1回会議を開催させていただきました。本日は第2回目の開催となります。

ご案内の通り、日本の人口は減少し、今後も加速的に失するものと思われ、人口減少により消費、経済力の低下は日本の経済社会に対し大きな重荷となることが予測されております。そこで国では、昨年「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、地方における脆弱な部分に対し事業を実施することによって人口減少に歯止めをかけ、2060年に1億程度の人口を確保し、人口克服と地方創生を併せて行い、将来にわたって活力のある日本社会を維持することを目指すものでございます。

愛荘町におけます「みらい創生戦略人口ビジョン編」につきましては、この後ご説明申し上げ

げますが、2006年（平成18年）の合併時には人口は19,999人でありましたが、本年8月末では21,200人と合併以降1,200人増加しております。しばらくは住宅開発などの影響によりまして増加する傾向にあるのではないかと考えています。しかし、近い将来は、人口は減少に転じるものを考えております。

すでに国が策定している長期ビジョン・総合戦略や、県が策定している人口減少を見据えた「豊かな滋賀づくり総合戦略」を勘案しつつ、愛荘町の人口動向を分析し、今後目指すべき方向を踏まえて、将来の展望を示す愛荘町人口ビジョン及び愛荘町総合戦略を策定すべく進めているところでございます。

本日の会議におきましては、「愛荘町みらい創生会議人口ビジョン編（素案）について」の説明、また、「SWOT分析による愛荘町の戦略課題の検討について」を議題に上げております。

皆さん方、SWOT分析はよくご存じだと思いますが、目標を達成するために意思決定を必要としております組織や個人のプロジェクトなどにおきまして、外部環境や内部環境の強み（Strengths）のS、弱み（Weaknesses）のW、機会（Opportunities）のO、脅威（Threats）のTの4つのカテゴリーで要因分析をしていただいたものでございます。

本日、この場に庁の各部より職員が参加しておりますので、SWOT分析による愛荘町の戦力課題の検討について議論を重ねていただければと考えています。

第1回でも申し上げましたが、愛荘町総合戦略は、本会議であります愛荘町みらい創生会議及び役場内に設置しております愛荘町まち・ひと・しごと創生推進本部での議論に基づき策定するものでございます。限られた時間ではございますが、十分ご審議いただきますようお願いを申し上げ、簡単ではございますが開会のあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

事務局：ありがとうございます。

本日は、会場も前回とは変わりました、ここは通常、議員さんにお集まりいただいて全員協議会という場です。今日は、先ほどお話がありましたように、ディスカッションを行うということで少し会場を変えてさせていただきました。

いつも目の前にマイクはないのですが、この会場にございまして、ご発言の際にはトークというボタンを押していただくということでお願いをしたいと思います。そうすると皆さんよく聞こえますので、発言が終わればボタンを押して切っていただくということで、よろしくお願ひしたいと思います。

本日の資料でございまして、次第、カラー版の人口ビジョン編（素案）、みらい創生戦略課題の検討と3つありますので、よろしくお願ひいたします。

会議の進行ですが、みらい創生会議設置要綱の第6条に規定しております、西村会長に議長をお願いすることになっておりますので、西村会長、よろしくお願ひいたします。

（2）愛荘町みらい創生会議 委員の変更について

西村会長：それでは、2番目の議事、愛荘町みらい創生会議委員の変更について、事務局、よろしくお願ひします。

事務局：みなさん、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。総合政策課の橋本です。どうぞよろしくお願ひいたします。

（委員の変更について説明）

日本政策金融公庫、長瀬支店長さまに今回から新たにかかわっていただきましたので、ひと言ごあいさつをいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

長瀬委員：みなさん、おはようございます。今回第2回会議から委員として参画させていただくことになりました、日本政策金融公庫彦根支店長をしている長瀬と申します。どうぞよろしく願いいたします。

私ども日本政策金融公庫は、以前は国民生活金融公庫という名前で親しまれておりました。22年の10月に3機関が合併して3事業を営んでいます。彦根支店は国民生活事業を営んでおり、主に小規模事業者さまに事業資金を融資しております。事業資金の他にサラリーマン、勤務者の方にもご利用いただいて、国の教育ローンも取り扱っています。創設以来、彦根支店管内も毎年500人程度の方が国の教育ローンをご利用いただいており、子育て支援をさせていただいているところです。

また、私ども政策金融公庫は創業支援に長年力を入れて専門機関として取り組んできております。26年度は全国で26,000企業を立ち上げています。1地域4人の雇用が生まれると言われておりますので、全国でだいたい10万人の雇用を創出したこととなります。

彦根支店は、長浜から下は近江八幡、日野、竜王と滋賀県の約半分、50%を管轄しております。彦根支店管内で昨年度は73企業の創業融資を実行しています。また、愛荘町の創業支援事業の取得により、現在、総合支援セミナーを商工会と共催しておりますが、私どもも講師を派遣して受講者の創業の立ち上げに力を尽くしてまいりたいと考えております。

創業以外にソーシャルビジネス、NPO法人への支援、企業再生、海外展開、国の政策に基づく執行をいたしております。雇用の創出という面では、私ども日本政策金融公庫、皆様のお力添えになれると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

西村会長：ありがとうございました。どうぞよろしく願いいたします。

(3) 愛荘町みらい創生戦略 人口ビジョン編（素案）について

西村会長：それでは、3番目の議事、愛荘町みらい創生戦略人口ビジョン編（素案）について、事務局より説明をお願いします。

（事務局より人口ビジョン編（素案）の説明）

西村会長：ありがとうございました。若い世代をどのようにして愛荘町に入れていくかが問題になってくるのではないかと思います。これにつきまして何かご意見がありましたら、よろしく願いいたします。

嶋中委員：嶋中です。36ページの円グラフ、既婚者が77%ですが、アンケートは幅広い世代に送られたのですか。

気になるのは、私の息子も30代ですが、収入がなくて彼女がいても結婚できない状態にあります。そういう方々に町内でがんばっていただきたいので、テレビのお見合い大作戦に来てもらうという取り組みはすごくいいと思います。国勢調査が始まりましたが、町内の30代、40代の女性・男性の未婚率、そういう情報は取れているのですか。

事務局：アンケートは各世代に配布しています。その中で各世代の未婚率は出しております。前回のアンケート調査の中には入ってなかったと思いますが、バックデータとして持っております。アンケート結果から、30代、40代は低いですが、50代以降になると既婚者が圧倒的に多くなっています。逆に、20代はまだ半数以上が結婚していないという結果になっています。

川嶋委員：彼女、彼氏との出会いがないだけではなくて、収入がない方も多いわけです。抜本的に、理想的な方向付けはできても、今の実態が見えていないところがあり、机上の空論になりがちだと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

事務局：アンケート結果で、結婚にあたっての問題として、結婚資金や生活資金、住宅、職業などが出ています。あわせて、ここは複数回答で聞いていますが、出会いの場がないというところも高くなっていますので、様々な施策が必要だと考えています。出会いの場は、これまでも言われてきたことではありますが、アンケートの結果からも出ていますので、真剣に取り組むべきところだと考えています。

西村会長：難しい問題で、結婚は個人のプライバシーもあるので、協議していかなければならないと思います。

他にご意見はございませんか。

田中委員：滋賀銀行の田中でございます。ご説明ありがとうございます。調査の中で確認されているかどうかをお伺いしたいのですが、7ページのところです。

年齢別人口移動状況を推計されている中で、10代後半から20代の流出は理由が明確だと思いますが、50代の転出が目立っています。1980年からのグラフでは増えたり減ったりという動きがあります。このあたりの理由を深読みされたかどうか。

私の想像としては、急激な社会増で、工場進出がこの地域はだいぶ進みましたので、そのときに来られた方が退職を迎えられて、転職して田舎（地元）に帰ったのではないかと。そういう予想をしていますが、かなり大きな数値なので、理由を確認してはどうかというところでは。

もう1点は9ページ、通勤・通学の状況のところ、先ほどはあまり触れられませんでした。愛荘町から京都市に104名、12%の学生が通学しています。近隣と同じだけの数字が京都市に通っているのも、もう少し目を向けていく必要があるということをお願いしておきます。最初のところだけ確認をいただいてもよろしいですか。

事務局：7ページのグラフですが、出典は国勢調査で、国勢調査の推計では数字の部分でしか現在は把握できないところがあります。その原因として、この地域は第3次産業を踏まえた流入が1つの特徴になることを考えると、流入した方々が退職して出ていかれたということもあるかもしれませんが、具体的な根拠やそういった情報は把握できていないのが現状です。

西村会長：その他に何かございませんか。

秦委員：44ページ、出生率の目標を設定して、これまでの間の値をグラフに描いていますが、これはどのように決めているのですか。トレンドで、それぞれ各5年間の出生率を出さないと推計できないので、この曲線や直線はどのように。

事務局：1つの目標として2030年と2040年をお示ししています。その間ですが、44ページのグラフは出生率で、ここを徐々に上げていかなければ、いきなり上がるという話ではございませんので、まっすぐそのままトレンドで補完している、つないでいるという形で出生率の設定をしております。

秦委員：3ページの文章は、細かいことですが、1990年以降1世帯当たりの人口が大きく減少する一方というよりは、「世帯数は年々増加し」というところで、世帯数はどうなのかを書いた方がいいと思いました。

事務局：ありがとうございます。そうさせていただきます。

大橋委員：人口ビジョン、人口動態の面から調べていますが、町として人口を受け入れるだけの環境が

整っているのかどうか。就業環境はどうなっているのか。現在進出している企業はどの程度の従業員を見込めるのか。そのあたりの相関関係を見ていかないと、戻ってきても就業環境がないということであれば収入がなく、収入がなければ結婚もできないので、根本的なところをきちんと考えていかないと人口動態予測の部分も難しいと思います。

事務局：これにつきましては、SWOT分析のところでご意見を聞かせていただきます。

長瀬委員：送ってくれた資料を拝読して、人口目標自体が楽観的な数字に近いという印象を持ちました。目標出生率も全国の状況や社人研の計算よりも高くなっています。希望的な出生率の計算を用いているところから考えると、今と同じ人口を維持することは実態として可能なのかどうか。出生率を維持するためには、仕事も含めて子育て世代への対策を講じないと、2万人を維持するのは難しいという印象を持っています。

宇野町長：愛荘町は平成23年から、幼児から義務教育終了まで一貫した子育て施策を実施しています。その中で愛荘町は子育てにやさしいまちづくりを推進しているわけですから、そこは問題ないのかと思います。しかしながら、子育ては、やりかけたらきりがありません。エンドレスですから、今後も続けていくことになります。

人口目標は一定の数式に当てはめて算出していると認識しています。愛荘町は、23年に農地法が強化されるまでに、かなりの農地が不動産屋に押さえられています。今現在、秦荘西地区ではほとんどの農地が不動産屋に押さえられ、どんどん住宅が建っている中で、子どもの出生数は増えています。データはありませんが、今の社会情勢から見てそのように認識しています。

国道8号線から西側については、10年後に神郷彦根線（県道）がついて、愛知川に橋が架かる予定で県事業として進めています。この地域については今後も住宅が建つ可能性があります。あくまでも可能性です。農地とのバランスがありますので、一挙に住宅ばかり増やすわけにはいかないと思いますが、そういった状況の中で住宅は増えていく可能性があります。現状では稲枝駅までは車ですと10～15分、能登川駅も10～15分で行けます。渋滞の関係で15～20分かかりますが、橋が架かるとはるかに短縮されます。この地域から京都や大阪に通勤・通学されている方がたくさんいると思いますが、駅に行くまでの時間が短縮されず。

将来的な人口ビジョンとすれば、減っていくのは全国的な傾向なので、それはやむを得ないと思いますが、いかに人口を維持していくか。今後、企業誘致の問題もありますが、そういった社会現象から見れば極端には減らないのではないかと。人口目標を出している数値につきましては、行政として楽観的な考えは持ちませんが、実態と乖離はしていないと感じています。まだまだ今後、社会現象として増える要因になると思っています。

西村会長：ありがとうございます。よい方向に愛荘町が進んでいける目標がありますので、それにうまく乗っていけばいいと思っています。

女性の委員の方、どうですか。

野村委員：野村です。50代の人口流出、転出が多いというところで気になるのは、親の介護などで転出される人もいますが、20～40代の人の中にはチャンスがあれば出たいと思っている人たちもいます。今は子どもがいるので自由に動けません、子どもが独り立ちをしてこれから自分たちの生活となったときに、町内ではなくて他の地域に出ていかれる。これから余生を過ごしたいというときに、ここに住んでいる意味がなくて、多少の蓄えがあると、今がチャンスと彦根や近江八幡など、JR沿線の便利なところに行かれるかたが多いのではな

いか。仕方なく転出するのではなくて、チャンスが来たから出るという考え方もあると思います。

秦 委員：住み替えのパターンがあるのですか。持ち家を取得して町内に住んでいる人が転出することもあるのですか。

野村委員：稲枝駅や能登川駅を使うにあたり、車で何分ということですが、1人1台車を持っているわけではありません。京都や大阪に出るためには駅に行きますが、駅までの交通手段は自家用車しかありません。学生にしても、京都の手前であれば十分に通えますが、京都の奥の方になると、ここからJR沿線に出るだけで時間の半分を使ってしまうので、交通に関しては不便なところだと思います。50代、60代と年齢が高くなると、車であちこち出歩くというよりは、もう少しゆとりを持ってとなったときに、自家用車だけが交通手段ではないという考え方になってくると思います。

北村委員：秦荘有線の北村です。資料を拝見して、秦荘地域の東地区はどんどん人口が減っていくとのことで、秦荘西地域から東地域に嫁いできましたが、表を見ていると自分たちや子どもたちの将来が心配になってきます。湖東三山スマートインターチェンジがせつかくできたのですから、その周辺に、できた当初は大きな企業が来るという話がありましたが、立地条件や何かの加減で無理なのでしょうか。

宇野町長：企業立地の問題については、スマートインターができましたので、われわれも努力はしているのですが、土地利用の関係もあり、公的規制がかかっています。インター周辺300メートル以内については一定の土地開発ができますが、それ以外は調整区域が多分でありまして、企業誘致ができないという土地利用の規制があります。

地方創生、本社機能を地方に持ってこようということですが、国交省、農水省の間でそれぞれのテリトリーを守っている関係で、企業誘致をしようとしても開発条件の中でコミットされてしまうという状況がありますので、滋賀県を通じて国へ、地方創生と言うのであれば今の土地利用規制を緩和するように強固に申し入れています。それができないと絵に描いた餅になり、いくら企業誘致をしても来ないというのが実態です。

秦荘地域は、今から7～8年前に住宅造成をして住宅・工業団地をつくらうとしましたが、結局は農水省の網にかかってできませんでした。そういう基礎的なことが解決されない限り、難しいのが実態でございます。国が地方創生と言うのであれば、各省庁横断行政の中で対応してくれないと、われわれのような小さな町は難しいのが実態ですが、われわれは諦めていませんから、県を通じて強固に申し入れています。それが解決できれば来てくれると思っています。

西村会長：北村さんが言われるように、産業が来ないことには人口も増えないと思いますので、現実化に向けて町行政にご尽力いただきたいと思います。

北村委員：秦荘東地域で人口が減っているのは山手になります。通勤や通学で町外へ出られる方も多く、分譲住宅もまだ進んでいません。また、お年寄りが多いということで、一人暮らしの方や高齢世帯の方が亡くなられて古民家が残っています。私の住んでいる地域にも古い住宅があって、まだまだ住めますが、住む人がいなくて、借りる人もいないので、古民家を再利用できないか。

若い世代の方たちは、地域のつながりを嫌がる人もいるかもしれませんが、同居していないので経済的にも苦しい状態です。2人の娘を嫁がせましたが、住宅ローンを抱えて経済的にも大変だと言っています。最近はおさんの実家近くに家を建てるのがはやりのようで、愛荘

町でよいところはないかと娘と探したのですが、ないという状態でした。

古民家を住宅やカフェに活用できないか。先日、友達と三重県にある砂風呂に行きました。山奥の古民家を改装して建物内に砂風呂があり、交通の便が悪い場所ですが、若者たちがたくさん来ていました。今はスマートフォンの時代で、カーナビもありますから、愛荘町によいところがあれば遠くからでも若者たちが来てくれると思います。

西村会長：その話は、次の SWOT もありますので、ご意見を聞かせていただきたいと思います。

それでは、時間の都合もありますので、4 番目の議事、「SWOT 分析による愛荘町の戦略課題の検討について」進めていきたいと思います。これにつきましては、若手の職員も遠慮なしにご発言いただければと思います。よろしくお願いいたします。それでは、事務局から説明をお願いします。

(4) SWOT 分析による愛荘町の戦略課題の検討について (事務局より SWOT 分析による愛荘町の戦略課題資料の説明)

西村会長：自由に発言をしていただきたいと思います。

オブザーバーで来ていただいている職員の森野さんからお願いします。5 名、来てくれたか
いがないので、しっかり発言していただきたいと思います。自分たちが置かれている
立場によってお考えがあると思います。それに対してご意見を聞かせていただきたいと思
います。

森野委員：森野と申します。よろしくお願いいたします。

愛荘町としての魅力をどこまで上げるかというところで、私は行政の職員なので土地勘はあ
りますが、一般の方たちは豊郷、多賀、どこまでが愛荘町かわからない人も思うので、
その中で愛荘町に活力を与えていくのであれば目立たなければいけない。その中で魅力を出
していかないと人は来ないと思います。1,800 ある全国の自治体の中で、I ターンの部分で
あれば、何か魅力を出さないと誰も来ないと感じました。

野々村委員：商工課の野々村です。今回の分析を率直に見て、首都圏の旅行会社に営業に行きますが、
旅行会社からは、京都から 40～50 分と近いことが最大の魅力だと言われます。特に団体客
は京都を観光してからどこかないかと探しますが、大阪や和歌山となると距離的にも時間的
にもかかるので、滋賀県には魅力があるという話をされています。

一方、個人になると、愛荘町には交通もなく、例えば JR の駅、能登川駅や稲枝駅を活用
して交通網を充実させて観光客を呼んではどうかと思っています。もう 1 つ言われているの
は、湖東三山は、秋は紅葉ですが、渋滞するから行けない。提案ができないということなの
で、渋滞の改善も視野に入れてはどうかと思っています。

愛荘町は Handwerk、手仕事のまちだと思っています。近江上布やびん細工手まりもある
ので、そういったものを活用して広めていく。目立つものがなく、土産物もありません。私
どもも着手できていません。身近なものとして農業が盛んなので、農業を振興して 6 次産業
でモノに変えることで、循環的に進めていけないかと日ごろから思っていました。今回の
強み・弱みを見て農業にも目を向けてはどうかと思いました。

ウリがないところが課題だと思っています。

杉本委員：住民福祉部の杉本と申します。よろしくお願いいたします。

今回 SWOT 分析に参加して、分析とは違うかもしれませんが、オンリーワンのまちとして

愛荘町の名前をもっと売っていく必要があります。東近江市の高校に行っていました、東近江市の高校ですら愛荘町（旧秦荘）を知らない人がたくさんいます。そういう実態を自身で体感しています。

例えば休耕田がたくさんあるのなら、広い平地なのでヒマワリやコスモスなどの花を植えることで観光客に来てもらい、まずは愛荘町を知ってもらうことからスタートするのが一番いいのではないかと。そうすることでマイナス面として出ていた公園や緑地が少ないというところもカバーできて、地元の人たちも自然に触れ合うことができます。

花の管理にあたっては、高齢者の力をお借りして管理していけば地域も活性化して、周りから人が入ってくるようになっていくと考えています。

廣瀬委員：総務部税務課の廣瀬と申します。よろしく申し上げます。

外から入ってきた同期が多く、通勤時間がかかるにもかかわらず愛荘町に住もうとしないのは、普段から疑問に思っていたところです。私は小さいときから愛荘町に住んでいるので不便と思ったことはないのですが、交通の便が悪い。最近車を購入した同期は、車を購入したら、なおさら出たいと言っているのに、交通の便以外にも何か要因があるのかもしれない。大学を卒業してから就職の関係で一時は東京に出ていましたが、愛荘町にずっといた割には愛荘町のよいところを把握できていないところもあります。役場に入って勉強していますが、実際に入ってこないとわからないこともあります。入ってきたらよいものがあるので、もっとアピールをしていけば来てくれる人も増えると思います。

岡本委員：環境対策課の岡本と申します。環境関係とはまったく違う意見で申し訳ありませんが、目立つものがない、オンリーワンのものが必要だという意見が出た中で、スマートインターチェンジの近くには金剛輪寺があり、目玉にできそうなものとして中山道があります。町内にはいくつもあると思います。特産品ではびん細工手まりがあり、66 うどんもあります。例えば他市ではおかげ横丁など、広い地域で盛り上げているところもありますので、1つの観光名所を持って特産品などで周りを盛り上げていく。そういった形も使えるのではないかと感じました。

西村会長：委員から SWOT 分析（案）についてご意見がありましたら聞かせていただきたいと思えます。

兼房委員：高田労働組合の兼房です。労働者の立場で感じたことを申し上げます。人口減少に歯止めをかけるには、手っ取り早いという語弊があるかもしれませんが、企業誘致が大事ではないかと思っています。愛荘町4地区の中で秦荘東はどんどん減少していますが、スマートインターできて、東側は農地ですが土地が多くあるので、そこに企業を誘致できないかと思っています。

先ほど町長から、厳しい規制があつて誘致ができないという話がありました。秦荘も含めてどの地域も企業誘致をしたいと思っています。愛荘町にはこれだけの土地があります。人が住んでいる地域は15%というデータもありますが、土地としてはあります。町長も、県や国に対してしっかり発言していきたいと言われていたので、ぜひ進めていただければと思っています。地方創生といっても企業誘致ができなければ先に進まないで、そういったところをアピールしていただきたいと思っています。

会社は高田にありますが、入社しているのは県外から来ているメンバーばかりです。数年前に会社の敷地内に寮をつくりましたので新入社員は寮に入ります。そうすると愛荘町民になります。寮を出ても、独身者であれば会社が寮として借り上げている愛荘町内のアパートに

住むことになります。

ある程度の年齢になると出ていくという意見がありました。会社でも 10 年ほどすると独身者でも寮を出ることになります。結婚すると寮を出ます。自分で住む場所を探することになりますが、そのときに愛荘町に残るかというに残りません。彦根や近江八幡、八日市などに出ていきます。

そういう傾向があるので、住宅地は増えていますが、居住できる環境を整えていく必要があります。直接は聞いていませんが、出ていく理由としては公共交通関係が多いのではないかと。JRは便利です。愛知川には近江鉄道がありますが、便数が少なく、高いということもあります。公共交通機関の企業との調整も必要になってきますが、その部分を含めた取り組みが必要ではないかと感じています。

長瀬委員：頭の整理をさせていただきたいと思います。人口ビジョンで掲げられている「心ふれ愛、笑顔いっぱい元気な町」、これが1つのキャッチフレーズという押さえ方でよろしいですか。それと、SWOT分析の中で創生戦略として1～3が示されました。戦略1のオンリーワンのまちは視点3と結びついているという考え方でよろしいですか。戦略2は住民が帰るまち、戦略3は持続可能なまちで、視点1ということでもよろしいですね。

それを受けて、まち・ひと・しごとの主な施策イメージという形で出ています。交通アクセスと居住環境のよさを活かした定住促進策の推進という1つの項目を設けて、これに対して具体的な対策を考えていく。こういう整理でよろしいですか。取捨選択で重点的に取り組む項目があると思いますが、そういう整理でよろしいですか。

事務局：1点目の「笑顔いっぱい」につきましては、合併当初に総合計画（10年）を町全体として策定し、その大きな柱としてキャッチフレーズを設けていますので、それは引き継いでいくことになると思っています。最後の部分については、ご意見をいただいて、そういう形で進めていきたいと思っています。

西村会長：まだ発言されていない正木さん、どうですか。

正木委員：私は人口ピラミッドでは一番人口の少ない世代の20代で、わかっていないことも多いのですが、高校の友達に愛荘町に住んでいると伝えると「どこ？」と聞かれたことがあって、彦根の近くとしか答えようがなかったのが、誇れるものや町のブランドとして1つでも大きなものがあればと思います。

進学のために下宿をする人が多いのは、交通が不便なのと、田舎はダサい、不便というイメージを持っている若者が多いからだと思います。私は小さいころからおじいちゃんの姿を見てきて農業はすごくいいと思っていますが、そういう考え方の人が減っているのが大きいと思います。愛荘町は素晴らしい、田舎は素晴らしいということをPRする方法があれば、考え方が変わって若者が増えてくると思います。

結婚の話がありましたが、お金がないから、出会いがないからというのもあると思いますが、そもそも結婚したくない、結婚するメリットがないという人が多いような気がします。親の姿や周りの大人の姿を見て、結婚して何がよいのかという人が多いと思うので、上の世代の方が結婚はよいことだとアピールするのも、進めることの1つだと思います。

西村会長：私たちには想像がつかない話が出ましたが、世代の違いなのかと思います。

嶋中委員：嶋中です。大阪から滋賀県に来て、愛知川は聞いたこともないところでしたが、住めば都で、琵琶湖があり、田舎の田園風景が広がっています。鈴鹿山系をバックに刈り取られた田んぼの写真を撮ってフェイスブックに載せると「いいね！」をたくさんもらいました。

こちらに来て価値観が変わりました。田んぼがあるおかげで四季折々です。滋賀県は日本の真ん中で素晴らしいところだと誇りに思っています。まちづくりに力を入れていきたいので、以前から町長に、ふるさと納税を早くしてほしいとお願いしています。

びん手まりもあり、お酒もあり、お米もあります。それからUCCやコクヨ、66うどん、そうめん、とてもおいしいです。アピールするものはたくさんあります。総合計画で「まちじゅうミュージアム構想」がありましたが、消えてしまっている状況です。

花火や66祭り（66かまど祭）をフェイスブックやユーチューブでアピールしていく。手立てはいくらでもあるわけですから、若い職員にそういったところも積極的にアピールしていただければと思います。

デメリットは、ゆっくり過ごせる温泉施設や、1日中遊べる公園や遊園地がないところで、動物園や植物園があればいいと思います。お年寄りが多いのはデメリットではなくて、これからは老人を大いに活用していく。高齢でも元気なので、支援される側ではなくて、まちづくりを支援する側だと思います。70歳以上の方ががんばって取り組んでいます。

毎週エチボウルでボーリングをしています、中高年で溢れかえっています。毎週500人前後が1人2,000円は落としています。週100万円がエチボウルに入ります。つぶれかかっていたのですが、機械を総入れ替えしました。元気よく投げるので機械が壊れて、古すぎて部品交換ができないので総入れ替えをしないといけない状況でした。

行くとわかりますが、元気いっぱいです。居場所づくりをしてくれているので表彰ものだと思っていますが、町外から来ている方が多いです。彦根や近江八幡、八日市、能登川、五個荘からたくさん来ています。ですから、視点を変えて、魅力のあるところを堂々とアピールしていくことが大事だと思っています。

地域おこし協力隊の方が来られて1年半になりますが、がんばってくれていて、NHKテレビの朝の放送で「ののすておりがみ」が紹介されました。

オンリーワンはたくさんあると思います。びん手まりも唯一のものです。愛知川駅のびん手まりのポストをあちこちに発信していますが、町内のポストは全部びん手まりのポストにしてはどうでしょうか。お金をかけるのならそういうところにかけて、ふるさと納税で億単位を集めている町もありますので、がんばりましょう。よろしくお願いします。

事務局：ふるさと納税については、資源がたくさんありますので活用していきたい。中身を調べるとネットによる申し込みが多く、しかも県内では近江牛に飛びつくそうです。町としてもそれを活用して発信していこうと昨日も検討しましたが、町全体として考えていきたいと思しますので、ご意見をお願いしたいと思います。

大橋委員：嶋中委員のお話を聞いて、年寄りの活性がかなり進んでいるようで、私も年よりの部類に入ってきたので安心しました。

別の話になりますが、愛知川町は確かにイメージできない。ここに書かれているように、金剛輪寺は国宝です。何が国宝かわかりますか。歴史に詳しい人に滋賀県の国宝を聞かれて金剛輪寺と答えましたが、調べたところ、国宝は建造物が指定されるので、金剛輪寺の本堂（国宝）、三重塔（重要文化財）、二天門（重要文化財）、大行社本殿、この4つが国宝に指定されています。滋賀県内で国宝に指定されているのは181カ所、そのうち4カ所がそういう部類です。彦根城も国宝で3つの建造物が登録されています。

調べてみないと出てこないわけです。地元の間人が知らないものはアピールできないわけです。そういう意味で、地元を知ってもらうためにアピールして、そういう活動に広がっていか

ないと、全国的に知名度がないので広めていくのは無理だと思います。地元の人間が説明できないものを、全国的に説明できるわけがありません。

金剛輪寺は秦荘地区にあって、愛知川町と合併しました。秦荘の金剛輪寺ですが、なぜ愛知川町にあるかという、そういう具体的なものは何もないわけです。ただ、郡役所は県内でオンリーワンになります。愛知川のオンリーワンとしてもっと打ち出していく必要があると思います。今までいろんな経緯があったようですが、これをきっかけとして、ぜひやっていただきたいと思います。郡役所は全国で 49 カ所あります。貴重な建物なので、ぜひお願いしたいと思います。

お金をかけなくてもアピールできます。平日の 6 時から放送していますが、ビデオ投稿や写真投稿があり、それを利用してしっかりアピールできると思いますので、お願いしたいと思います。

長瀬委員：この案の中で具体的な対策を考えていくと思います。政策金融公庫では、来年度の予算要求をしている中で、地方創生に絡んで産業育成、いわゆる中小企業対策を含めて地方創生の事業について特別に支援をしていきます。

中小企業対策を含めて具体的な事業があると思います。その事業を具体化してお示しいただければ、中小企業対策事業や新規開業の支援事業であれば、そういった施策の適用対象になります。基準の利率よりも落としたり、返済期間を伸ばしたりといった対策が出てくると思いますので、そういった事業を設けていただければと思います。

長崎委員：私は所属がハローワークなので、仕事に関することになります。まち・ひとの話が中心に出っていますが、愛荘町は中小企業が多く、地場産業では織物が盛んで昔は機屋さんもたくさんあったと思います。それが今ではなくなってきたので、地場産業の活性化が必要だと思います。あちこちの市町の地方創生の会に出っていますが、地場産業の活性化や新規創業の支援の議論がありますので、そういう点も考えていく必要があると思っています。

愛荘町の有効求人倍率は 8 月現在で 0.99 倍と 1 倍を切っています。彦根の安定所の有効求人倍率は 1.44 倍で、県内でも一番高いですが、愛荘町は 0.99 倍です。

最近、愛荘町内の企業を回っていますが、上向きのところは非常に少ない。ひどいところになると、リーマンショック以降よりも悪いという企業もたくさんあります。そういうところは活性化を図っていく必要があると思っています。企業誘致については、町長がおっしゃったように、町にがんばってもらうしかないと思います。

町内に就職してもらうため、定住してもらうためには、町内にある企業の働き方改善を進めなければならないと思っています。滋賀労働局では、働き方改革ということで局内に本部を設置し、労働基準監督署を中心に多様な働き方を進めています。ここにも書かれていますが、町内にある企業をますます発展させていくとともに、地場産業の活性化が必要だと思います。

嶋中委員：愛知川があり、愛と知は 21 世紀のキーワードだと思います。愛と知の川を整備して人々が集える場として利用していただきたい。一方で、この町は宇曾川と愛知川に囲まれており、何十年に一度という怖い氾濫がなきにしもあらずという状況になっています。一方で、それがデメリットになっている部分もあるわけです。両方とも決壊すると水浸しになって逃げるところがありません。高台のない平地ですので、護岸整備はできないでしょうが、防災に対する強化を見直していただければと思います。1,000 ミリ降るとダメだと思いますので、よろしくお願いします。

野々村委員：現状として、私は南野々目の近くですが、小学校のときは 25 軒ほどあったのが、今や人が流出して 6～7 軒になっています。人がいないために、集落はもちろん、若者で祭りができません。祭りの年齢も 60 歳まで上がり、集落のコミュニティはいかがなものかと思っています。同級生や同世代がいません。流出させない手立て、戻ってきてくれる手立てを考えなければなりません。

集落で上の人と接する機会を増やし、コミュニティとはこういうものだという勉強会をする。昔の人は一緒にお酒を飲んでワイワイすることもありましたが、今の若い人たちは上の人と飲んだりするのは面倒くさがったり嫌がったりします。だから出てしまうということもあると思います。流出して人が減っているという現状をしっかりと認識していただきたいと思っています。

野村委員：野村です。先ほどから話を聞いていると、嶋中さんが言われたように、ボーリング大会をするとたくさんの方が来られますが、それは町外の人だということ。ボランティアでイベントをしても関心が高いのは町外の人たちで、アンテナを張っている町外の人がこちらに来られます。

町内の人たちは町外に目を向けて生活している人が多いと思います。町内の小さなところに目を向けるのではなくて、普段の生活が町外に向いていることが多いような気がします。人口が減っていくことを考えると、人の生活は小さなことの積み重ねだと思います。もちろん雇用も必要ですが、人が生活していく小さなコミュニティなど、小さなところでの問題はすごく大きくかかわっているように思います。

正木さんが言われたように、誇りが持てない。彦根の近くとしか言えない。そうではなくて、「愛荘町はこんなところよ、知らないの？」と、役場の方が情報を発信するのではなくて、一住民が自分の声で自分の言葉で町のよさを発信していく。それができる人づくり、そういう教育がおろそかになっていると、自分自身が子どもを育てていて思います。

子どもが外に出たときに、愛荘町はこんなにいいところだから見に来て、遊びに来て。そういうことが言えるような子育て環境にあるかということ、はっきり言って乏しいと思います。オンリーワンの教育はなくて、小・中・高と他の地域にいても変わらないような教育。他の地域と変わらないのであれば、より便利などところに行くのは当たり前のことです。

企業誘致などは大きな数字が挙がってくるのかもしれませんが、もっと小さな分野で、今の小学生が地域にある図書館が大好き、学校が大好きと堂々と言えるようになれば、愛着もあり、将来はここで生活しよう。よき伴侶が見つかったらここを紹介しよう。そういうところにつながっていくと思います。だから、人の小さな生活に目を向けた戦略が必要ではないかと思っています。

分析している中で 8 ページ、人という分野で愛荘町の弱みとして実は教育レベルが比較的低い。滋賀県全体が低いのですが、その中で愛荘町はすごく低いです。医療・福祉の部分では健康寿命が県平均を下回るとあります。ということは、人の小さな生活が実は十分ではないのではと思います。

お年寄り元気、出歩いている方は元気で、元気だから出歩けます。でも、元気ではない方たちの普段の生活はどのようにフォローできているのか。教育レベルが低い。教育レベルが低いのは愛荘町には気がつかない。町以外の人たち、県外の人たちと接することにより、そんなことは知らない。教えてもらわなかった。その時点で町に対する意識が下がってしまうと、ここで子どもを育てよう、大きくなったら戻ってこようとはならない。

いろいろな施設があつて自然も豊かである。そういうところを活かして、大きな戦略よりも、小さな戦略を積み重ねていかないと、恩恵を受けるのは一部の人だけで、大多数の人たちは視点を外に向けたまま、愛荘町は進んでいってしまうのではないかと思います。大雑把な意見ですが、以上です。

西村会長：予定より少し時間が過ぎましたが、4番の議案についてはまとまりませんので、次回の会議で継続していきたいと思います。それでは、5番の議事、その他。事務局、よろしくお願いします。

(5) その他

事務局：多くの意見をいただきましてありがとうございます。SWOT分析については多くの意見を持っている委員さんがいると思います。今後まとめに入るにあたり、これは強みではないか、弱みではないか、些細なことでもかまいませんので、個別にでも事務局にいただければと思います。

続きまして、今後のスケジュールですが、愛荘町みらい創生戦略の策定スケジュールにつきましては、今後タイトなスケジュールになっていまして、人口ビジョンを精査したものと総合戦略の素案を12月議会で報告できるよう、進めていきたいと思っています。翌年1月にパブリックコメントを募集し、コメントを整理して2月の戦略の公表に向けて進めていきたいという思いを持っています。

そういうスケジュールで進めていくと、11月中旬に第3回の会議を開き、第4回を12月上旬、短い期間になりますが、そういう形で進めてまいりたいと思います。それに合わせて具体的な施策を推進していきます、庁内の推進本部も並行して施策の整理してまいりますので、タイトなスケジュールで申し訳ございませんが、ご協力をいただきたいと思います。

11月中旬に第3回を開催したいのですが、都合の悪い日はありますか。

(日程の調整)

今回は11月12日(木)9時30分から開催させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

西村会長：それでは、最後に秦委員から閉めの言葉をお願いします。

秦委員：みなさん、ありがとうございました。いろいろお話をお聞かせいただいて参考になり、まちの現状が聞けたと思います。私も外の人間ですので、外から見ると愛荘町の潜在力は高いと思っています。オンリーワンというよりは、多くの資源がありますので、それをどう発信するかということなので、これまでよりも強いメッセージが必要だと思います。計画の中でメッセージを発信していけば、町民の方々ややろうと思っている人たち、いろいろな方が動き出すのではないかと考えています。

ぜひ意見を出していただいて計画をよりよいものにしてきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局：長時間にわたりありがとうございました。今回は11月12日9時半からということで、またご案内をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。